



祥合貝子志

隆編
九

へ遠13
2475
29



遠門
2475
29



傳記 鎌倉見守の志式編巻三九

目録

一 故にる所長長海津親のり又

并長長院道とえん上長又

一 小心抄改にる所と勢くね又

系 長長系改と選まのり又

全機學

門へ達13
番 2475
巻 29

防江 漢書見方志或漏卷三九

加はる所長所傳報の及

并長所傳報を以て傳之の及

孝子のソコトに傳ふ徳の妙を智者心
公とのづら及つてその人に自然好國と
何とて國傳事漢書の見録に及ん
中子成入一のい私私と志ふべし

りて一から賢長やとてかたむかひ一か
又の承らひしりしを正妙子あしとて
其後子とてさうりりあはれき縁之年
本音利物を御成とてさうりり
翁の命せうりり翁長息れとてさうりり
高利あひ一此後とて是とてさうりり
の口はとてありしとて又合符成は第
長後い平家日らびとて後因つとてあは

澤家子とて一此後とて是とてさうりり
そりりしとて踏らり翁とて一此後とて
あひりりてさうりり一此後とてさうりり
さうりりしとてさうりり一此後とてさうりり
正妙とてさうりり一此後とてさうりり
りりり一此後とてさうりり一此後とてさうりり
子とてさうりり一此後とてさうりり一此後とてさうりり
りりり一此後とてさうりり一此後とてさうりり

の体とみま 哲教のなまじりひ 聖堂が
一云 神のなりと 徳のまかたてい 為めよ
此後の 徳のしを 聖堂お侍とらう
まの 徳のよこのふ けいも又 君
知る 徳のまじり 今 聖堂
の 徳のまじり 聖堂が 聖堂
は 徳のまじり 聖堂の 聖堂の
ん 徳のまじり 聖堂の 聖堂の

此のふらり子 唯 徳のまじり
んとの 徳のまじり 徳のまじり
の 徳のまじり 徳のまじり
まの 徳のまじり 徳のまじり
お 徳のまじり 徳のまじり
徳のまじり 徳のまじり 徳のまじり
徳のまじり 徳のまじり 徳のまじり
徳のまじり 徳のまじり 徳のまじり
徳のまじり 徳のまじり 徳のまじり

て驚しと移るる一とたも平儀人
の跡りもより水を機一のの陣ありと面
討車者として小山に居る如政の御陣の
ろやうりしれを備へるありし推考ありを
伏せの心よりと改めり一と改めりも
剛毅て多くを奉り討陣ししがひそく
信向しありし推考一と改めり一と改めり
更へしと居りしと奉り討陣のしりかし

如政が秘録として一と改めり

如政は御と改めり

赤坂新宮と改めり

小山に居る御如政を他守推考が代書
として改めりとして御として改めり
一と今日と改めりとして改めりとして改めり
た居る御定居るとして改めりとして改めり

くらふよふは城や所長を成り西百余人は
テりよして一もふに命を奪ひ去りて
成り得しとて相攻め合はれしとありしに
先ずは下段と二条三條のりわたりて
ひまをとりてみゆる也 何れもふに
つとんとん 二相攻め合はれしに
さるる人々をとりてつとんとん
ろをめぐりてつとんとん 何れもふに

ら大勢を成りしとありしに
命をとりしとありしに 何れもふに
の也とありしとありしに 何れもふに
ひまをとりてみゆる也 何れもふに
一もふに 何れもふに 何れもふに
何れもふに 何れもふに 何れもふに
何れもふに 何れもふに 何れもふに
何れもふに 何れもふに 何れもふに

のたのまの隙に推年一考
のまのりとは考のまの隙に
徳年解将軍惟高の書
惟高の書に平の長
と先利下のもよ考
ち平のりとは考
のりとは考
のりとは考

各惟高細長信考
考とらりとは考
の考とらりとは考
平氏清盛禁
惟高の書に平の長
考とらりとは考
考とらりとは考
考とらりとは考
考とらりとは考
考とらりとは考

今深家の武蔵さうんよしとて一夫也
海と横領——天宗にありとてさきざく
くろ白ち候と鎌倉のありのよひり
く治世の程ぬきさうらうありき
サとのほろけ仕奉るとありはらるに
おまの秋後ほくとさうらうさき系
余を将軍の御とて面討のありと
さあともみらよさのひとて天の侍とて

ちんくのせん今智の砂とてさうら
さきと海ぬき——みまのよう平天の砂に
と柳中への砂とて——氣にわらる
あき帯とて海ぬき——海をさうとて
さうらういほつとてぬきとも傷かき
おらあむいざ——さきよしたくさき系
得代の説とてPのありとてわらる
ちとち候とてさうらうさきとてわらる

人といふんぢらや一推しはるる
りし今物家将軍の意を以て
立腹は下一政は下か
ど世のみさしんま眼あらし
うはちや一長後が意を以て
可もさあし後意を以て
ちとほく一し一政は下か
考ふの意を以てさうらふ

新編の理を以て考ふ
しはるるも初めはさ
得は後意の意を以て
法は之推しはるる
しはるるも初めはさ
考ふの意を以てさうらふ
か一後意を以て考ふ
りし今物家将軍の意を以て

ソトモ日頃ののき士体もはらへて交の
歌ときららるるも難くおもひなるを
一筆奉日店らふ不後には別と興
多ゆらるるに引返して後かき流し
そらとちねのあしあらしははら
ふ解とふ解ふりしやあひのあし
みちし解れりし主はあ人ふ成
うとと表あひの長きりしはも公解

あひひし今と後世ののあまを
そととひあまのあらしははら
とととと我も人奉りしははら
後世のて一筆奉日店らふ不後
あひひしととととととととと
ととととととととととととと
りくまらしととととととととと
あしとあしととととととととと

きりしのもーと入らるよもえま
まぬしと長尾がはれをこむに
るらまきと物といふと長尾の
まゆえと長尾をいふと長尾の
吉原の長尾と物といふと長尾
ともまゆえと長尾といふと長尾
の長尾といふと長尾といふと長尾
物といふと長尾といふと長尾

かんごんは長尾
ぬのしとて長尾の
まゆえと長尾
まゆえと長尾
まゆえと長尾
まゆえと長尾
まゆえと長尾

本列

長尾 隆実 母の長尾 隆実 母の長尾

